



視力検査のお願い



子どもの目の機能は生まれてから発達を続け6歳にほぼ完成します。ところが強い屈折異常(遠視、近視、乱視)や斜視があると目の機能の発達が遅れて、十分な視力が得られないことがあります。こうした異常は早く見つけ、小さいうちから正しい治療や指導を受ける必要があります。そのために視力検査は大切な検査です。ご家庭で視力検査をしてその結果を3歳児健診の時にお知らせください。(この検査が全ての眼科的疾患を判別するものではありません。)

ランドルト環の視力検査(遠距離視力検査)の方法



(図1)

用意するもの

- 1 視標：別紙の視標(練習用)、指標(検査用)を切り取ります。
- 2 眼帯：ティッシュペーパーを5cm位の大きさに折って、テープでのぞかれないように注意して目を隠します。
- 3 メジャー・ものさし：距離を測ります。
- 4 アンケート用紙



(図2)

検査の方法

- 1 本が楽に読める程度の明るい部屋で行います。
- 2 視力検査の練習をします。
 - (1) 子どもと1m位離れて向かい合い、大きい視標(練習用)を子どもに見せます。
 - (2) 両目を開けたままで、子どもに「切れ目」の方向を、指か手で示して答えさせます。(図1) 別紙の回答用の指標(子ども用)を作り、向きを合わせる方法もあります。(図2)
 - (3) 「切れ目」の方向は、上、下、左、右の4方向とし、視標の向きを変える時は、必ず一度視標を隠してから変えてください。
 - (4) 子どもが正しく答えられるように練習します。→難しいときは、別紙(図3)参照。
 - (5) 1m位でできたら、距離を離して練習します。2.5m(できるだけ正確に測ってください。)離れて向かい合い、大きい視標(練習用)を子どもに見せます。
 - (6) 両目を開けたままで、「切れ目」の方向を答えさせます。
 - (7) 2.5mを両目でできたら、片目を隠して練習します。眼帯で、子どもの左目、右目をそれぞれ隠して、右目、左目で、「切れ目」の方向を答えさせます。
3. 視力検査の本番です。
 - (1) 子どもと2.5m離れて向かい合い、小さい視標(検査用)を子どもに見せます。
 - (2) 初めに、両目を開けたままで検査します。「切れ目」の方向は、上、下、左、右の4方向を見せて、「3方向以上」正解したときは、アンケート用紙に○を、正解が「2方向以下」のときは×を記入します。
 - (3) 次に、左目を眼帯で隠して、右目の検査をします。○×の判定は、両目の時と同じです。
 - (4) 最後に、右目を眼帯で隠して、左目の検査をします。
 - (5) アンケート用紙は、健診の時にご持参ください。
※嫌がったり、見にくそうにするときは、(3)と(4)の順番を入れ替えてください。

ランドルト環の視力検査(遠距離視力検査)ができないとき

1. 3歳の時点では、検査の指示が理解できず、ランドルト環での視力検査ができないお子さんもいらっしゃいますので、できなかった場合は、健診時にお知らせください。3~6か月以内に再度検査していただくようご説明いたします。 → 裏へ

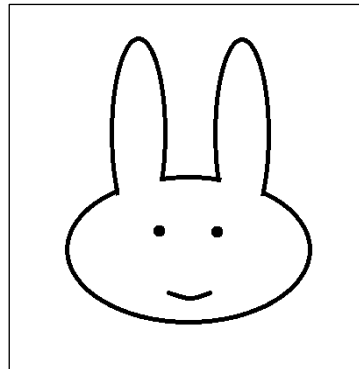
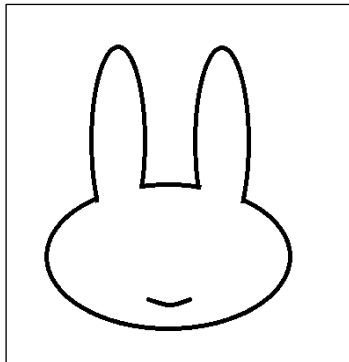
2. ご家庭で、ランドルト環による視力検査（遠距離視力検査）ができなかった場合には、3 歳児健康診査当日に、ドットカードの視力検査（近距離視力検査）を実施いたします。スムーズに検査ができるよう、ご家庭で指さしの練習をしてきてください。

※ドットカードの視力検査（近距離視力検査）は、ランドルト環の視力検査（遠距離視力検査、対象：3 歳以上）に比べ、2 歳前後から検査可能な検査になります。また、幼児の視力は、近距離から発達するので、「近距離視力が悪ければ弱視が疑われる」とも言われています。

練習方法

- (1) お子さんの目から 30 cm 離して図 4 のカードを示して、「お目めある?」「お目めない?」と聞き、目がある時は「ある」、目がない時は「ない」と答える練習をします。
- (2) お子さんの目から 30 cm 離して、「お目めどこにある?」と聞き、指さしをしてもらいます。
- (3) 検査が難しい時は、絵本や人形などで、「お目めどこにある?」と聞き、指さしの練習を行ってください。

(図 4)

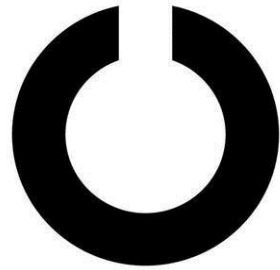


上下を切り取り、正方形の指標にしてください。

キリトリ

上下を切り取り、正方形の指標にしてください。

キリトリ



キリトリ



キリトリ

指標（練習用）

キリトリ

指標（検査用）

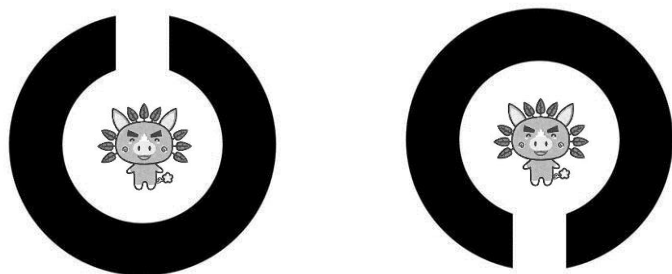
視力検査が難しいときは？

(図3)

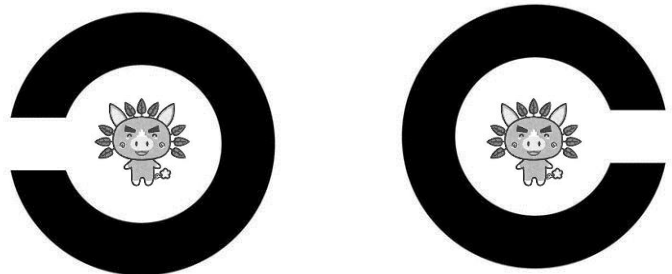
3歳0か月児で、一か所が切れた輪の指標（ランドルト環）による視力検査ができるのは、73%とされています。（3歳6か月児では、95%。）

子どもに「輪の切れ目はどっち？」、「輪の開いているところは？」と聞いても、伝わらないことがあります。

練習では子どもの近くで、下図3のように、「ぐりぶーが、まん丸の輪（お部屋）から外に出るところはどっち？」など、子どもが興味を持ち、分かりやすく練習できる工夫をしてみてください。また、1日でできないときは、何日か練習してみてください。



(図3)



回答用の視標（子ども用）

牛乳パックなどの厚紙に貼って切り抜き、別紙（視力検査のお願い）図2のように子どもに持たせる指標にご利用ください。

